

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和7年5月分）

【製造業】

- 製造業は、3月の鉱工業生産指数は前月比3.8%上昇となった。ヒアリングでは、アメリカ向けは減っておらず全体としては横ばいとの声や、精密プレス部品事業については金属プレス部品の受注が減っているため撤退し、プラスチック成型事業に業務を集中させることとしたとの声が聞かれた。
- 地場産業は、3月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、食料品、家具、パルプ・紙で上昇した。ヒアリングでは、販路拡大やインバウンドの需要が好調なことを背景に、売上は増加傾向にあるとの声が聞かれる一方で、キャラクター製品が比較的売れているが高価格帯製品の売れ行きが良くないため、売上は前年比で減少し、利益面も赤字となったとの声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、4月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比7.7%増加となった。ヒアリングでは、大きな動きはなく、IT投資など事業効率化を目的とした積極的な投資はあまり見られない印象との声や、大きな設備投資が終わったため、しばらくは大規模な設備投資の予定はないとの声が聞かれた。

【個人消費】

- 個人消費は、4月の販売額は、全体で前年同月比2.3%増加となった。ヒアリングでは、生鮮食料品スーパーは引き続き好調に推移しているとの声や、価格転嫁はできており、客単価は上がっているが、客数は落ちているとの声が聞かれた。

【観光】

- インバウンド客の増加等により、観光客数、宿泊者数ともに前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、観光客数、宿泊者数ともにコロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 4月の制度融資実績は金額で9ヶ月連続の減少となった。資金需要について特段大きな動きは無いが、運転資金の需要は多く、緩やかに増加しているとの声が聞かれた。

【雇用】

- 雇用面は、4月の有効求人倍率は1.43倍と前月比▲0.02ポイントとなった。ヒアリングでは、新卒採用について、学生側も健康経営優良企業、SDGsへの取組、男性の育休取得率などの観点で企業を見ており、採用側としても制度の拡充に取組む必要があると考えているとの声や、募集に際しては男女関係なく募集しているが女性の応募がなく、新規採用は全て男性であるとの声、現状では人手は足りているが、社員の高齢化が進んでおり、今後に向けた求人を行っているものの反応は薄いとの声が聞かれた。

【景気動向】

- 3月の景気動向指数（一致指数）は前月比1.3ポイント上昇、4月の中小企業の景況感は同1.0ポイント上昇となった。